

PIO-NETにみる危害・危険情報 —全国のデータから—

全国消費生活情報ネットワークシステム（PIO-NET:パイオネット）では、全国の消費生活センター等に寄せられる商品・役務・設備に関連して身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けた情報（以下「危害情報」という）、および、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（以下「危険情報」という）を収集している。

本章では、2019年度にPIO-NETにより収集した危害・危険情報についてまとめた。

2019年度の傾向と特徴

- 全国の消費生活センター等から収集した「危害・危険情報」は16,406件^{*1}で、対前年度比で見ると19.2%増である（表18）。
- 「危害情報」は14,032件で、上位3商品・役務等は「健康食品」「化粧品」「医療サービス」である（表19、表24）。「危険情報」は2,374件で、上位3商品・役務等は「四輪自動車」「調理食品」「自転車」である（表22、表25）。
- 「危害情報」は、「健康食品」が2,111件、「化粧品」が1,048件、それぞれ大きく増加したため、前年度より3,038件増加した。
- 「危険情報」は、「四輪自動車」が30件、「電話関連機器・用品」が28件、「パソコン周辺機器・用品」が23件、それぞれ減少したため、前年度より395件減少した。
- 「危害情報」のうち、1位の「健康食品」と2位の「化粧品」は、通信販売での定期購入に関する相談が高い割合を占めている。
被害者の性別はいずれも女性が約8割を占めた。被害者の年代をみると、「健康食品」では50歳代の1,099件（28.1%）と40歳代の942件（24.1%）、「化粧品」では50歳代の675件（23.4%）と60歳代の560件（19.5%）が多い。

*1 データは2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

1 消費生活センター等に寄せられた危害情報の概要

2019年度に消費生活センター等に寄せられた危害情報は14,032件で、前年度（10,994件）と比べると3,038件（前年度比27.6%）増加した（表18、図10 42頁）。これは、1位の「食料品」のうち「健康食品」が2,111件、2位の「保健衛生品」のうち「化粧品」が1,048件、それぞれ増加したことが大きく影響している（表19 43頁）。

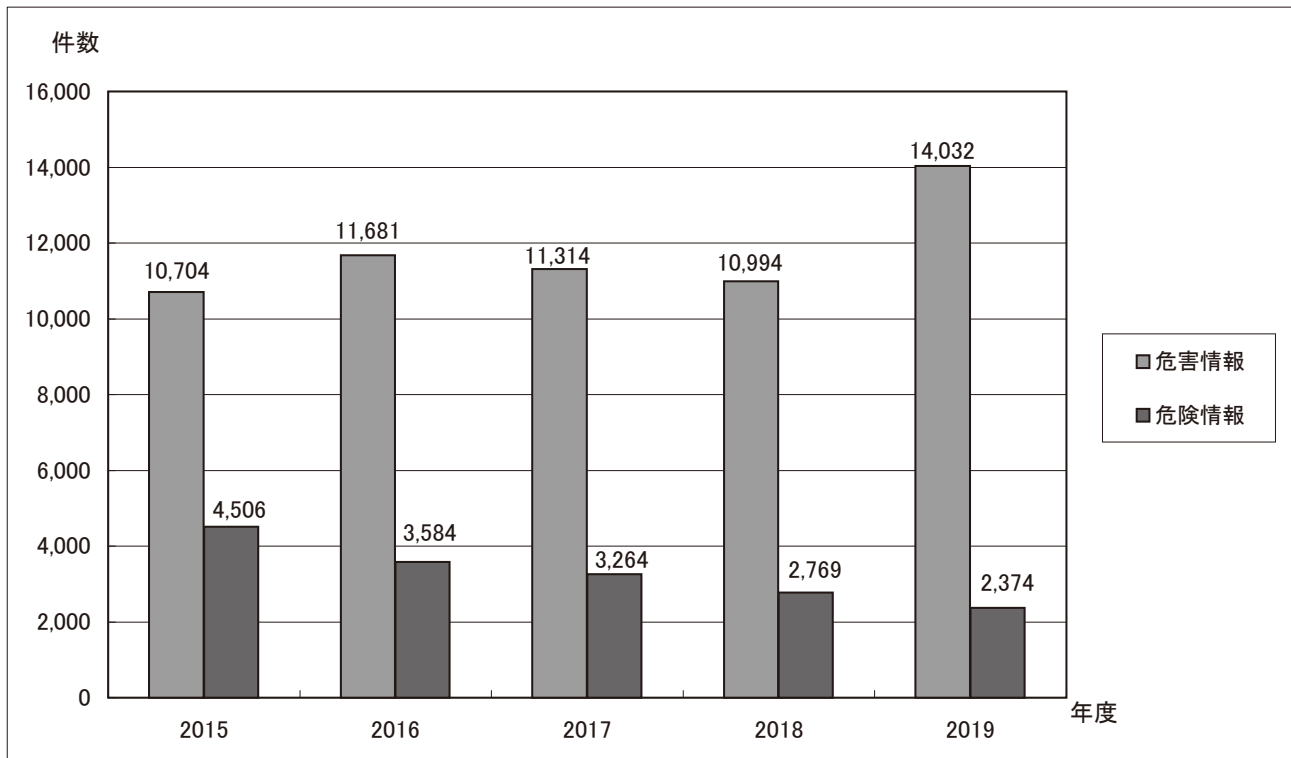
表18 危害・危険情報の年度別件数の推移

年度	危害	危険	計	対前年度比(%)
1975	292	345	637	-
1976	528	708	1,236	194.0
1977	907	834	1,741	140.9
1978	1,009	1,223	2,232	128.2
1979	979	1,200	2,179	97.6
1980	929	1,318	2,247	103.1
1981	948	1,850	2,798	124.5
1982	1,292	1,516	2,808	100.4
1983	1,115	1,331	2,446	87.1
1984	1,413	1,294	2,707	110.7
1985	1,640	1,119	2,759	101.9
1986	1,567	1,279	2,846	103.2
1987	1,603	1,111	2,714	95.4
1988	1,640	1,074	2,714	100.0
1989	1,650	1,165	2,815	103.7
1990	1,734	1,196	2,930	104.1
1991	1,650	1,089	2,739	93.5
1992	1,834	1,110	2,944	107.5
1993	2,206	1,725	3,931	133.5
1994	2,449	2,534	4,983	126.8
1995	3,934	3,324	7,258	145.7
1996	4,978	4,009	8,987	123.8
1997	5,035	2,688	7,723	85.9
1998	4,889	1,967	6,856	88.8
1999	5,106	1,936	7,042	102.7
2000	6,199	3,109	9,308	132.2
2001	5,670	2,578	8,248	88.6
2002	7,612	2,588	10,200	123.7
2003	6,543	2,132	8,675	85.0
2004	5,848	2,434	8,282	95.5
2005	6,511	2,819	9,330	112.7
2006	7,054	3,597	10,651	114.2
2007	8,545	4,558	13,103	123.0
2008	8,536	3,988	12,524	95.6
2009	8,292	3,635	11,927	95.2
2010	8,665	4,153	12,818	107.5
2011	11,551	3,712	15,263	119.1
2012	10,595	4,164	14,759	96.7
2013	13,660	6,889	20,549	139.2
2014	11,541	5,178	16,719	81.4
2015	10,704	4,506	15,210	91.0
2016	11,681	3,584	15,265	100.4
2017	11,314	3,264	14,578	95.5
2018	10,994	2,769	13,763	94.4
2019	14,032	2,374	16,406	119.2
計	236,874	110,976	347,850	

(注) 2020年5月末日までの登録分。

2007年度は国民生活センターで受け付けた経由相談を除いており、2008年度以降は消費生活センター等からの経由相談を除いている。

図10 危害・危険情報の年度別件数の推移



(注) 消費生活センター等からの危害情報、危険情報は、2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除いている。

(1) 危害情報の商品別分類の件数

危害情報を商品別分類別にみると、最も件数が多かったのは「食料品」4,847件（34.5%）で、このうち「健康食品」が3,911件と、前年度より2,111件増加して約8割を占めている。（表19 43頁）。このほかに「調理食品」「飲料」などが多い。「食料品」全体としては、前年度（1位、2,749件）より2,098件増加した。

2位は「保健衛生品」3,463件（24.7%）で、このうち「化粧品」が2,879件と、前年度より1,048件増加して約8割を占めている。このほかに「医薬品類」、マスクなどを含む「他の保健衛生用品」などが多い。前年度（3位、2,437件）より1,026件増加した。

3位は「保健・福祉サービス」2,629件（18.7%）で、「医療サービス」「エステティックサービス」「歯科治療」などが多い。前年度（2位、2,569件）より60件増加した。

4位は「住居品」769件（5.5%）で、「家具類」「洗濯用洗剤」「ふとん類」などが多い。前年度（4位、751件）より18件増加した。

5位は「他のサービス」441件（3.1%）で、このうち「外食」が362件と約8割を占めている。前年度（5位、469件）より28件減少した。

表19 危害情報の商品別分類の件数および主な商品・役務等

商品別分類	件数	割合(%)	主な商品・役務等
食料品	4,847	34.5	健康食品 (3,911)、調理食品 (244)、飲料 (169)、菓子類 (138)、パン類 (36)
住居品	769	5.5	家具類 (140)、洗濯用洗剤 (124)、ふとん類 (84)、他の住居洗剤 (28)、ルームエアコン (25)
光熱水品	32	0.2	電気 (18)、他の光熱水品 (7)、水道 (5)
被服品	261	1.9	靴・運動靴 (67)、紳士・婦人洋服 (46)、婦人下着 (30)、アクセサリ (27)、他の身の回り品 (17)、草履・サンダル類 (17)
保健衛生品	3,463	24.7	化粧品 (2,879)、医薬品類 (130)、他の保健衛生用品 (99)、家庭用電気治療器具 (70)、メガネ・コンタクトレンズ (50)
教養娯楽品	324	2.3	健康器具 (67)、タバコ用品 (65)、携帯電話 (20)、園芸用品 (15)、ペット (13)、玩具・遊具その他 (13)
車両・乗り物	187	1.3	自転車 (103)、四輪自動車 (49)、他の自動車用品類 (6)、自動二輪車 (6)、自転車用品 (6)
土地・建物・設備	135	1.0	電気温水器 (39)、戸建住宅 (22)、分譲マンション (16)、空調・冷暖房・給湯設備全般 (9)、温水ボイラー (7)
クリーニング	8	0.1	クリーニング (8)
レンタル・リース・貸借	303	2.2	賃貸アパート・マンション (254)、借家 (22)、レンタルサービスその他 (10)、介護用品レンタル (8)
工事・建築・加工	107	0.8	新築工事 (32)、内装工事 (22)、増改築工事 (18)、塗装工事 (10)、他の工事・建築サービス (7)
修理・補修	20	0.1	修理サービス (17)
運輸・通信サービス	60	0.4	タクシーサービス (15)、鉄道サービス (13)、バスサービス (12)、移動通信サービス (7)、航空サービス (6)
教養・娯楽サービス	313	2.2	スポーツ・健康教室 (113)、宿泊施設 (64)、スポーツ施設利用 (51)、遊園地・レジャーランド (27)、国内バックツアー (11)
保健・福祉サービス	2,629	18.7	医療サービス (829)、エステティックサービス (394)、歯科治療 (356)、美容院 (261)、他の医療サービス (193)
他のサービス	441	3.1	外食 (362)、他の行政サービス (12)、食事・食材宅配 (10)、ハウスクリーニング (8)、損害保険 (7)
その他	133	0.9	商品一般 (130)
合計	14,032	100.0	

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 「主な商品・役務等」は各商品別分類における上位5位の商品・役務等。ただし、原則として5件未満は除く。2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(2) 危害情報の商品・役務等の件数

商品・役務等別にみると、最も件数が多かったのは「健康食品」3,911件 (27.9%) で、各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」が1,565件、「高麗人参茶」が663件、それぞれ増加したため、前年度 (2位、1,800件) より2,111件増加した。(表24 55頁)。

2位は「化粧品」2,879件 (20.5%) で、「乳液」が455件、「脱毛剤」が329件、それぞれ増加したため、前年度 (1位、1,831件) より1,048件増加した。

3位は、美容医療を含む「医療サービス」829件 (5.9%) で、前年度 (3位、846件) より17件減少した。

4位は「エステティックサービス」394件 (2.8%) で、「美顔エステ」が13件増加したものの、「痩身エステ」が8件、「脱毛エステ」が7件、それぞれ減少したため、前年度 (4位、409件) より15件減少した。

5位は「外食」362件 (2.6%) で、便秘・下痢に関するものが26件、腹痛に関するものが20件増加したものの、前年度 (5位、375件) より13件減少した。

(3) 危害内容

危害内容別にみると、最も件数が多かったのは「皮膚障害」4,690件（33.4%）であった（表20）。内容を商品・役務等別にみると、「化粧品」が2,680件と過半数を占めており、次いで「健康食品」852件が多い。「化粧品」が1,039件、「健康食品」が355件、それぞれ増加したため、前年度（1位、3,220件）より1,470件増加した。（表26 56頁）。

2位は「消化器障害」3,283件（23.4%）で、「健康食品」が2,621件と約8割を占めている。このほか「外食」105件、「調理食品」96件などに関するものが多い。「健康食品」が1,592件増加したため、前年度（3位、1,726件）より1,557件増加した

3位は「その他の傷病及び諸症状*2」2,745件（19.6%）で、「医療サービス」379件、「健康食品」330件、「歯科治療」295件などに関するものが多い。「医療サービス」が38件減少したが、「健康食品」が109件増加したため、前年度（2位、2,667件）より78件増加した。

4位は「擦過傷・挫傷・打撲傷」636件（4.5%）で、「自転車」62件、「エステティックサービス」54件などが多い。前年度（4位、644件）より8件減少した。

5位は「熱傷」569件（4.1%）で、「医療サービス」85件、「エステティックサービス」78件などが多い。前年度（5位、600件）より31件減少した。

表20 危害内容別上位10位

順位	年度	2019年度		
		危害内容	件数	割合 (%)
1		皮膚障害	4,690	33.4
2		消化器障害	3,283	23.4
3		その他の傷病及び諸症状	2,745	19.6
4		擦過傷・挫傷・打撲傷	636	4.5
5		熱傷	569	4.1
6		刺傷・切傷	475	3.4
7		呼吸器障害	388	2.8
8		骨折	317	2.3
9		不明	229	1.6
10		神経・脊髄の損傷	199	1.4
		総件数	14,032	100.0

（注1）表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

（注2）2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(4) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数をみると、女性が10,322件（73.6%）、男性が3,459件（24.7%）で、いずれも前年度に比べて件数が増加したが、性別の割合はほぼ変わらなかった（表21 45頁）。

年代別件数では、50歳代が2,929件（20.9%）と最も多く、以下、40歳代2,639件（18.8%）、60歳代2,060件（14.7%）、70歳以上1,976件（14.1%）、30歳代1,498件（10.7%）、20歳代1,129件（8.0%）、10歳代421件（3.0%）、10歳未満227件（1.6%）と続いた。前年度に比べて、10歳未満を除く各年代で件数が増加した。

*2 「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、歯の損傷、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表21 性別・年代別危害件数

年代	性別		男性		女性		不明・無回答(未入力)		計	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	112	3.2	85	0.8	30	12.0	227	1.6		
10歳代	170	4.9	239	2.3	12	4.8	421	3.0		
20歳代	352	10.2	772	7.5	5	2.0	1,129	8.0		
30歳代	379	11.0	1,117	10.8	2	0.8	1,498	10.7		
40歳代	563	16.3	2,065	20.0	11	4.4	2,639	18.8		
50歳代	534	15.4	2,386	23.1	9	3.6	2,929	20.9		
60歳代	508	14.7	1,546	15.0	6	2.4	2,060	14.7		
70歳以上	545	15.8	1,424	13.8	7	2.8	1,976	14.1		
無回答(未入力)	296	8.6	688	6.7	169	67.3	1,153	8.2		
合計	3,459	24.7	10,322	73.6	251	1.8	14,032	100.0		

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

次に、被害者の年代別に危害の多かった商品・役務等をみると、10歳未満では、1位は「外食」26件（前年度1位、24件）、2位は「家具類」13件（前年度2位、16件）、3位は「遊園地・レジャーランド」12件（前年度6位、9件）である。3位の「遊園地・レジャーランド」、4位の「玩具・遊具その他」、10位の店舗等における転倒の事故の相談が多くみられた「商品一般」が10位以内に入るのは10歳未満のみであった。（表27 57頁）。

10歳代では、1位は「化粧品」161件（前年度1位、81件）、2位は「健康食品」92件（前年度2位、34件）、3位は「自転車」28件（前年度3位、29件）である。3位の「自転車」が10位以内の商品・役務等に入るのは10歳代のみであった。

20歳代では、1位は「化粧品」258件（前年度3位、96件）、2位は「健康食品」227件（前年度4位、90件）、3位は「エステティックサービス」140件（前年度1位、128件）である。

30歳代では、1位は「健康食品」402件（前年度2位、142件）、2位は「化粧品」225件（前年度1位、152件）、3位は「医療サービス」111件（前年度3位、140件）である。

40歳代では、1位は「健康食品」942件（前年度1位、387件）、2位は「化粧品」502件（前年度2位、358件）、3位は「医療サービス」144件（前年度3位、128件）である。

50歳代では、1位は「健康食品」1,099件（前年度2位、423件）、2位は「化粧品」675件（前年度1位、472件）、3位は「医療サービス」108件（前年度3位、101件）である。10位の「洗濯用洗剤」が10位以内に入るのは50歳代のみであった。

60歳代では、1位は「健康食品」603件（前年度2位、317件）、2位は「化粧品」560件（前年度1位、339件）、3位は「医療サービス」86件（前年度3位、91件）である。

70歳以上では、1位は「健康食品」378件（前年度1位、303件）、2位は「化粧品」340件（前年度2位、229件）、3位は「医療サービス」149件（前年度3位、173件）である。8位の「家庭用電気治療器具」、9位の「ふとん類」、10位の「他の保健衛生用品」が10位以内に入るのは70歳以上のみであった。

「健康食品」は各年代で増加したが、特に50歳代が676件、40歳代が555件、それぞれ大きく増加した。

「化粧品」は10歳未満を除く各年代で件数が増加し、特に60歳代が221件、50歳代が203件、それぞれ増加した。

「医療サービス」は30歳代から60歳代までは「美容医療」が多く、70歳以上では「処方薬」が多くみられた。

(5) 危害情報における上位3商品・役務等の概要

危害情報の上位3商品・役務等である「健康食品」「化粧品」「医療サービス」の危害内容等は次のとおりであった（表24 55頁、表26 56頁）。

①健康食品（3,911件）

「健康食品」の内訳をみると、各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」2,596件（66.4%）、「高麗人参茶」676件（17.3%）、「酵素食品」396件（10.1%）の順であった。「他の健康食品」が1,565件（前年度1位、1,031件）、「高麗人参茶」が663件（前年度5位、13件）、それぞれ大きく増加した。

性別では、女性が3,140件と約8割を占めている。年代別では、50歳代が1,099件（28.1%）で最も多く、次いで、40歳代942件（24.1%）、60歳代603件（15.4%）の順であった。

危害内容は「消化器障害」が2,621件と約7割を占め、次いで「皮膚障害」852件（21.8%）、「その他の傷病及び諸症状」330件（8.4%）の順であった。

<事例>

- ・インターネット上の広告を見て初回無料の豊胸サプリメントを申し込んだ。飲むと嘔吐し下痢になったので病院に行くと、このサプリメントのアレルギーだと言われた。業者に解約を申し出たが診断書が必要と言われた。（30歳代・女性）
- ・インターネットでダイエットに効果のある青汁とサプリメントを購入したが、飲んでみると下痢をした。初回での解約のため定額を支払うことに同意したが、振込用紙が届かず、電話もつながらない。（60歳代・女性）
- ・インターネット通販でダイエットサプリメントを試してみたら、下痢になったので飲むのをやめた。翌月も商品が届き定期購入と知ったが、商品を返送して代金を支払わずに放置していたら弁護士から督促状がきた。（50歳代・男性）
- ・スマートフォンで動画広告を見て500円程度の筋肉増強サプリメントを申し込んだ。飲むと湿疹が出てかゆくなったので解約を申し出たら、定期購入なので初回分を定価で支払えば解約できると言われた。（50歳代・男性）
- ・インターネット上の広告を見て100円のダイエットサプリメントのモニターを申し込んだが、後で高額の請求があり定期購入だとわかった。飲むと下痢をするので解約したい。（60歳代・女性）

②化粧品（2,879件）

「化粧品」の内訳をみると、「乳液」717件（24.9%）、「脱毛剤」445件（15.5%）、まつ毛美容液などを含む「化粧品その他」342件（11.9%）、「化粧クリーム」335件（11.6%）の順であった。「乳液」が455件（前年度2位、262件）、「脱毛剤」が329件（前年度5位、116件）、それぞれ大きく増加した。

性別では、女性が2,284件と約8割を占めている。年代別では、50歳代が675件（23.4%）で最も多く、次いで、60歳代が560件（19.5%）、40歳代502件（17.4%）の順であった。

危害内容は、「皮膚障害」が2,680件と9割以上を占め、次いで「その他の傷病及び諸症状」141件(4.9%)の順であった。

<事例>

- ・インターネットの広告を見てニキビ用ジェルを注文した。商品が届き使用したが、肌荒れがひどいので解約を申し出ると、初回限定で全額返金保証とあったのに4回分受け取らないと解約できないと言われた。(30歳代・男性)
- ・定期購入で目元美容液を購入したが塗ると腫れたため、かかりつけ医を受診すると使用を止められた。解約条件として病院の診断書か領収書が必要と言われ、領収書の送付で解約してほしいと申し出たが、解約の判断は書類を見て決めると言われた。(50歳代・女性)
- ・スマートフォンで980円の除毛クリームを1回だけ購入するつもりで注文した。商品を使用したら肌に合わず、かゆくなったり痛くなったりした。2回目の商品が届き定期購入だとわかったが解約したい。(20歳代・男性)
- ・インターネット通販で買った歯磨き粉を使ったところ、すぐに口内がしびれたため吐き出した。咳が出て声が出なくなったので病院を受診したら、アナフィラキシー反応と診断された。(50歳代・女性)
- ・スーパーで購入したクレンジングジェルを使用したら視界がかすんだ。眼科を受診すると瞳が傷ついていることがわかった。(30歳代・女性)

③医療サービス(829件)

「医療サービス」の内容をみると、美容医療に関する相談が446件と半数以上を占めている。

性別では、女性が616件と7割以上を占めている。年代別では、70歳以上が149件(18.0%)で最も多く、次いで40歳代が144件(17.4%)、20歳代が128件(15.4%)の順であった。

危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が379件(45.7%)と最も多く、次いで「皮膚障害」194件(23.4%)、「熱傷」85件(10.3%)の順であった。

<事例>

- ・医療脱毛を受けたら違和感があり、レーザーの機械によるやけどと診断された。(30歳代・女性)
- ・インターネットで探した医院で、包茎はがんになりやすいと言われ、包茎手術と永久に効果が続くというヒアルロン酸注入を受けたところ、数日後に局所が化膿した。(20歳代・男性)
- ・知人からの口コミで、内科でシミ取りのレーザー治療ができると聞き施術を受けたが、これまで以上にシミが増えてしまった。皮膚科で相談すると、レーザーを照射したことにより色素沈着が起きており、これ以上レーザーを当ててはいけないと言われた。(60歳代・女性)
- ・スマートフォンのクーポンサイトで見つけた美容皮膚科で、問診票に緑内障と告知したうえで^{まぶた}顔面数カ所に脂肪溶解注射を打った。^{まぶた}眼が腫れたため、2週間後にかかりつけの眼科を受診したところ、眼圧が急激に上昇しており、視野が4分の1欠けて回復しないとされた。(40歳代・女性)
- ・増毛の薬と注射を受ける契約をした。処方された薬を飲んだら副作用で突発性難聴になった。解約して返金してほしい。(50歳代・女性)

2 消費生活センター等に寄せられた危険情報の概要

2019年度に消費生活センター等に寄せられた危険情報は2,374件で、前年度（2,769件）と比べると395件（前年度比14.3%）減少した（表18 41頁、図10 42頁）。これは、1位の「住居品」が147件、3位の「教養娯楽品」が55件、4位の「食料品」が50件、それぞれ減少したことなどによる（表22 49頁）。

（1）危険情報の商品別分類の件数

危険情報を商品別分類別にみると、最も件数が多かったのは「住居品」661件（27.8%）で「電子レンジ類」「家具類」「電気掃除機類」などが多い（表22 49頁）。前年度（1位、808件）より147件減少した。

2位は「車両・乗り物」516件（21.7%）で、このうち「四輪自動車」が346件と過半数を占めている。このほかに「自転車」「自動二輪車」などが多い。前年度（2位、558件）より42件減少した。

3位は「教養娯楽品」331件（13.9%）で、「電話関連機器・用品」「パソコン」「携帯電話」などが多い。前年度（3位、386件）より55件減少した。

4位は「食料品」315件（13.3%）で、「調理食品」「菓子類」「飲料」などが多い。前年度（4位、365件）より50件減少した。

5位は「保健衛生品」92件（3.9%）で、「ヘアケア用具」、マスクや湯たんぽなどを含む「他の保健衛生用品」「家庭用電気治療器具」などが多い。前年度（5位、108件）より16件減少した。

（2）危険情報の商品・役務等の件数

危険情報を商品・役務等別にみると、最も件数が多かったのは「四輪自動車」346件（14.6%）で、前年度（1位、376件）より30件減少した（表25 55頁）。

2位は「調理食品」93件（3.9%）で、前年度（2位、102件）より9件減少した。

3位は「自転車」59件（2.5%）で、前年度（10位、48件）より11件増加した。

4位は「電子レンジ類」「電話関連機器・用品」がともに52件（2.2%）で、前者は前年度（4位、68件）より16件減少し、後者は前年度（3位、80件）より28件減少した。

表22 危険情報の商品別分類の件数および主な商品・役務等

商品別分類	件数	割合(%)	主な商品・役務等
食料品	315	13.3	調理食品 (93)、菓子類 (49)、飲料 (29)、パン類 (28)、生鮮肉 (15)
住居品	661	27.8	電子レンジ類 (52)、家具類 (49)、電気掃除機類 (49)、室内照明器具 (29)、扇風機 (26)
光熱水品	44	1.9	他の光熱水品 (27)、電気 (8)、石油 (7)
被服品	34	1.4	紳士・婦人洋服 (8)、靴・運動靴 (7)、他の身の回り品 (6)
保健衛生品	92	3.9	ヘアケア用具 (39)、他の保健衛生用品 (11)、家庭用電気治療器具 (6)、化粧品 (5)、美顔器 (5)
教養娯楽品	331	13.9	電話関連機器・用品 (52)、パソコン (50)、携帯電話 (45)、テレビ (35)、パソコン周辺機器・用品 (28)
車両・乗り物	516	21.7	四輪自動車 (346)、自転車 (59)、自動二輪車 (45)、他の自動車用品類 (19)、ベビーカー (8)
土地・建物・設備	71	3.0	分譲マンション (8)、ガス瞬間湯沸器 (7)、戸建住宅 (7)、ソーラーシステム (6)、トイレ設備 (5)、他の浴室関連設備 (5)、冷暖房設備 (5)、建具 (5)
クリーニング	0	0.0	
レンタル・リース・貸借	66	2.8	賃貸アパート・マンション (41)、リースサービス (8)、借家 (7)
工事・建築・加工	42	1.8	新築工事 (13)、他の工事・建築サービス (8)
修理・補修	52	2.2	修理サービス (40)、車検サービス (12)
運輸・通信サービス	19	0.8	移動通信サービス (10)
教養・娯楽サービス	9	0.4	スポーツ施設利用 (3)
保健・福祉サービス	35	1.5	医療サービス (18)
他のサービス	69	2.9	外食 (42)、他の役務サービス (10)、食事・食材宅配 (5)
その他	18	0.8	商品一般 (10)、他の商品 (8)
合計	2,374	100.0	

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 「主な商品・役務等」は各商品別分類における上位5位の商品・役務等。ただし、原則として5件未満は除く。2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(3) 危険内容

危険内容で最も件数が多かったのは「過熱・こげる」333件(14.0%)であった(表23 50頁)。内容を商品・役務等別にみると「携帯電話」26件、「パソコン」21件、「電話関連機器・用品」19件などに関するものが多い。前年度(1位、399件)より66件減少した(表28 58頁)。

2位は「機能故障」326件(13.7%)で、「四輪自動車」210件、「自動二輪車」28件、「修理サービス」23件などに関するものが多い。前年度(4位、347件)より21件減少した。

3位は「異物の混入」301件(12.7%)で、「調理食品」72件、「菓子類」40件、「外食」30件などに関するものが多い。前年度(3位、363件)より62件減少した。

4位は「発煙・火花」282件(11.9%)で、「四輪自動車」24件、「テレビ」21件、「ヘアケア用具」20件などに関するものが多い。前年度(2位、380件)より98件減少した。

5位は「破損・折損」243件(10.2%)で、「四輪自動車」26件、「家具類」22件、「自転車」19件などに関するものが多い。前年度(5位、346件)より103件減少した。

表23 危険内容別上位10位

年度 順位	2019年度		
	危険内容	件数	割合 (%)
1	過熱・こげる	333	14.0
2	機能故障	326	13.7
3	異物の混入	301	12.7
4	発煙・火花	282	11.9
5	破損・折損	243	10.2
6	発火・引火	222	9.4
7	その他	204	8.6
8	部品脱落	79	3.3
9	操作・使用性の欠落	72	3.0
10	破裂	69	2.9
総件数		2,374	100.0

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(4) 危険情報における上位3商品・役務等の概要

危険情報の上位3商品・役務等である「四輪自動車」「調理食品」「自転車」の危険内容等は次のとおりである（表25 55頁、表28 58頁）。

①四輪自動車（346件）

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」242件（69.9%）が最も多く、次いで「軽自動車」80件（23.1%）の順であった。

危険内容は、「機能故障」210件（60.7%）が最も多く、次いで「破損・折損」26件（7.5%）、「発煙・火花」24件（6.9%）の順であった。

<事例>

- ・ディーラーで新車を購入したが、自動制御システムに不具合があり、何度も修理をしているが原因不明で解消されない。高速道路運転中に急にブレーキがかかるなど不安だ。
- ・購入した中古車が、納車から数日後、走行中にエンジンから煙が出て動かなくなった。販売店は返品を認めたが、返金額に納得できない。
- ・3年前に購入した軽自動車のエンジンが走行中突然停止した。ディーラーに修理に出しても同じ状態になり、今までに3回修理した。危険なので乗車したくない。
- ・半年前に中古車を購入。しばらくしてハンドルがぶれるようになり、販売店に持ち込んだ。修理したと言われて車を引き取ったその日に直っていないことが分かった。修理代を請求すると言われたが納得できない。
- ・新車を購入したが、ハンドル調整の不備がまっすぐにバックしない。ディーラーは対応を検討すると言うが回答がない。まっすぐにバックしない車には安心して乗れない。

②調理食品（93件）

「調理食品」の内訳をみると、「冷凍調理食品」24件（25.8%）、焼き鳥、餃子などを含む「他の調理食品」23件（24.7%）、「弁当」18件（19.4%）の順であった。

危険内容は、「異物の混入」が72件と7割以上を占めた。

<事例>

- ・総菜店で買ったカツサンドを少し食べたところ、口の中で違和感を覚えたので吐き出したら、周りがギザギザしている金属片が入っていた。破片を飲み込んでいないか不安だ。
- ・子どもが食べた冷凍餃子に、複数の使用前のステープラーの針が混入していた。医療機関で検査した結果、飲み込んだものはなく、ようすを見ることになったが、メーカーの対応が事務的だ。
- ・卵アレルギーの子どもがいるので、卵が使われていないことを販売員に確認してメンチカツを購入したが、後で衣に卵が含まれていることが分かった。子どもには食べさせていなかったが、もし食べていたら大変なことになっていたと思う。
- ・腎臓の病気があり、食品の塩分量には気をつけているが、スーパーで購入した弁当の塩分量が1桁少ない誤表記だった。
- ・お総菜のトレーの上面に「レンジでチン」と書かれたシールが貼ってあったので、そのままレンジで温めたら火花が出てトレーが焦げた。底面を見ると電子レンジ不可と書いてあった。わざわざ上面にレンジで加熱できるようなシールを貼るのは紛らわしく危険だ。

③自転車（59件）

「自転車」の内訳を見ると、「電動自転車」29件（49.2%）、「一般用自転車」24件（40.7%）の順であった。

危険内容は、「破損・折損」19件（32.2%）、「その他」13件（22.0%）、「機能故障」11件（18.6%）の順であった。

<事例>

- ・自転車が購入して2カ月で走行中いきなりハンドルがぐらぐらになった。数カ月後また同じ不具合が発生。怖くて乗ることができないので返金返品してほしい。
- ・購入して4カ月しか経たない自転車に、ハンドルが急にガクッと下がったり、ブレーキがキーキー言うなど、たびたび不具合が起きる。危険なので交換してもらうことはできないか。
- ・購入して1年の電動アシスト自転車の本体部分が折れてタイヤ上部のカバーも壊れた。無償修理すると言われたが他の自転車に交換してほしい。
- ・6年前に購入した電動アシスト自転車の車輪のリムが頻繁に折れる故障を繰り返して危険だ。メーカーへ苦情を言ったが対応しない。
- ・昨年購入したクロスバイクの後輪のスポークが走行中折れたので修理をしたが、その後も2回折れた。

3 消費生活センター等に寄せられた危害・危険事例

() 内は被害者の年代・性別

(1) 死亡事故例

①有料老人ホーム

父が、入所していた有料老人ホームで出された行事食を喉に詰まらせて死亡した。(70歳以上・男性)

②ブラインド

実家を二世帯住宅にするためにリフォーム工事を契約したが、業者が取り付けしたブラインドのひもが娘の首に巻きつき死亡した。(10歳未満・女性)

(2) 後遺症の可能性が大きい事故例と重症事故例

①銀行

2年前の気温が氷点下だった朝に、銀行の玄関に毎日水をまいて清掃している業者が判断ミスで水をまき、水がシャーベット状に凍っていたため、滑って転倒し、くるぶしを骨折した。いまだに痛みがあり、正座ができないなどの後遺症がある。(60歳代・男性)

②フェイスリフト

美容医療外科でフェイスリフトと眼瞼下垂がんけんかすいの手術を受けたが、ずっと痛みが取れない。複数の医療機関でフェイスリフトの後遺症と言われた。(60歳代・女性)

③パーマ

美容院でパーマ剤が目に入り、翌日腫れと痛みを発症。眼科を受診したら、黒目が傷付いていて後遺症が残るかもしれないと言われた。(20歳代・女性)

④医療サービス

3年前に受けた注射によるしわ取り施術で、痛みや皮膚の盛り上がりなどの後遺症が残った。(40歳代・女性)

⑤歩行補助車

レンタルした歩行補助車を折りたたむ際に手を挟まれてけがをし、今でもしびれなどの後遺症がある。(70歳以上・男性)

(3) 目新しい商品・役務等による事故例

①電子ゲーム

画面を見ながら走ったり、ジャンプする電子ゲームに夢中になり、アキレス腱けんを切った。(60歳代・男性)

②タピオカドリンク

コンビニでタピオカドリンクを購入して飲んだところ、喉が詰まり救急車を呼んだ。後から確認したら注意喚起の表示があったが、小さな文字で分かりづらい位置だった。(70歳以上・男性)

③フライパン

水差しができるフライパンのふたを使用した際、誤って水差し口のふたを開けてしまい、蒸気で手にやけどをした。(40歳代・男性)

④ヘアアイロン

髪の毛を自動で巻き上げるヘアアイロンで後ろの髪を巻くときに、首にアイロンが当たってやけどをしてしまった。(50歳代・女性)

(4) 主に乳幼児向けの商品・役務等の事故例

①絵本

書店でしかけ絵本を購入した。各ページに曲線や直線の溝があり、溝にはまっている輪に指を入れて溝を転がして遊べるようになっている。1歳の孫が遊んでいたところ人差し指を切った。(10歳未満・不明)

②吹き矢

飲食店でもらった玩具の吹き矢の吹き口に子どもが指を突っ込み、挟まって抜けなくなり鬱血した。救急隊員に玩具を切断してもらった。(10歳未満・女性)

③ボール

全体が網目状になっているボールを子どもが口にくわえて遊んでいたところ、口の中を切って出血した。ボールを触って確認すると、バリが出ていて指先がチクツとした。(10歳未満・男性)

④傘

子ども用ジャンプ傘を購入直後に、幼児が触りたがったので渡したところ泣き声が出た。慌ててようすを見に行ったら、傘の骨の先端のカバーが外れて骨が露出し、幼児が瞼にけがをしていた。(10歳未満・女性)

⑤チャイルドシート

1年前に家電量販店で購入したチャイルドシートのシートベルトが走行中に外れて、幼児が前のめりに転がり落ちた。(10歳未満・男性)

(5) 主に高齢者・障害者向けの商品・役務等の事故例

①補聴器

インターネットで見た業者の店舗に行って補聴器を作ったが、雑音があり耳が痛くなって病院に行った。医師から「雑音が原因で痛くなったのではないか」と言われた。(60歳代・女性)

②介護用ベッド

母の介護用ベッドには転落防止の柵が頭側と足側に付いている。母が夜中に起き上がろうと、からだを動かしたところ、柵と柵の隙間から落ちて骨折した。からだに負担はかかるが手術するしか方法がなかったため、手術して成功したが、その後、ベッドからの転落が原因かは不明だが亡くなってしまった。(70歳以上・女性)

③グループホーム

グループホームに入所している母が入浴中に職員が風呂場を離れたため、溺れて救急搬送された。(70歳以上・女性)

④シルバーカー

母がシルバーカーを使用中、ハンドルが折れて転び手首を骨折した。使い勝手が良かったので同型機を利用していたが、同じ個所が再び折れた。(70歳以上・女性)

⑤サービス付き高齢者向け住宅

祖父が、入居するサービス付き高齢者向け住宅の部屋で転倒したが、体調に問題ないと判断されて見守りなく部屋で休んでいたところ容態が急変。救急搬送されたが当日脳出血で死亡した。(70歳以上・男性)

表24 危害情報の上位10商品・役務等の推移

順位	2015年度 10,704件			2016年度 11,681件			2017年度 11,314件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	化粧品	1,041	9.7	健康食品	1,877	16.1	健康食品	1,851	16.4
2	医療サービス	916	8.6	化粧品	1,175	10.1	化粧品	1,584	14.0
3	健康食品	907	8.5	医療サービス	933	8.0	医療サービス	811	7.2
4	エステティックサービス	523	4.9	エステティックサービス	567	4.9	エステティックサービス	449	4.0
5	外食	506	4.7	外食	468	4.0	外食	391	3.5
6	調理食品	346	3.2	飲料	460	3.9	飲料	349	3.1
7	美容院	342	3.2	歯科治療	349	3.0	歯科治療	325	2.9
8	歯科治療	322	3.0	調理食品	272	2.3	賃貸アパート・マンション	254	2.2
9	飲料	247	2.3	美容院	256	2.2	美容院	247	2.2
10	賃貸アパート・マンション	226	2.1	賃貸アパート・マンション	215	1.8	調理食品	244	2.2

順位	2018年度 10,994件			2019年度 14,032件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	化粧品	1,831	16.7	健康食品	3,911	27.9
2	健康食品	1,800	16.4	化粧品	2,879	20.5
3	医療サービス	846	7.7	医療サービス	829	5.9
4	エステティックサービス	409	3.7	エステティックサービス	394	2.8
5	外食	375	3.4	外食	362	2.6
6	歯科治療	313	2.8	歯科治療	356	2.5
7	賃貸アパート・マンション	248	2.3	美容院	261	1.9
8	美容院	243	2.2	賃貸アパート・マンション	254	1.8
9	調理食品	224	2.0	調理食品	244	1.7
10	他の医療サービス	204	1.9	他の医療サービス	193	1.4

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表25 危険情報の上位10商品・役務等の推移

順位	2015年度 4,506件			2016年度 3,584件			2017年度 3,264件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	四輪自動車	601	13.3	四輪自動車	460	12.8	四輪自動車	461	14.1
2	調理食品	306	6.8	こんろ類	268	7.5	調理食品	158	4.8
3	菓子類	167	3.7	調理食品	149	4.2	自転車	122	3.7
4	家具類	88	2.0	自転車	90	2.5	菓子類	100	3.1
5	電子レンジ類	81	1.8	電子レンジ類	85	2.4	電子レンジ類	88	2.7
6	外食	80	1.8	家具類	84	2.3	携帯電話	72	2.2
7	自転車	79	1.8	菓子類	76	2.1	電話関連機器・用品	68	2.1
8	石油ファンヒーター	72	1.6	携帯電話	72	2.0	修理サービス	56	1.7
9	修理サービス	69	1.5	電気掃除機類	63	1.8	家具類	53	1.6
10	飲料	68	1.5	修理サービス	62	1.7	テレビ	52	1.6

順位	2018年度 2,769件			2019年度 2,374件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	四輪自動車	376	13.6	四輪自動車	346	14.6
2	調理食品	102	3.7	調理食品	93	3.9
3	電話関連機器・用品	80	2.9	自転車	59	2.5
4	電子レンジ類	68	2.5	電子レンジ類	52	2.2
5	菓子類	65	2.3	電話関連機器・用品	52	2.2
6	家具類	53	1.9	パソコン	50	2.1
7	賃貸アパート・マンション	53	1.9	家具類	49	2.1
8	パソコン周辺機器・用品	51	1.8	菓子類	49	2.1
9	携帯電話	50	1.8	電気掃除機類	49	2.1
10	自転車	48	1.7	携帯電話、自動二輪車	45	1.9

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表26 危害情報における上位商品・役務等の危害内容ごとの件数

危害内容 商品・役務等	危害内容																			2019年度計	割合(%)	
	骨折	脱臼・捻挫	切断	擦過傷・挫傷・打撲傷	刺傷・切傷	頭蓋(内)損傷	内臓損傷	神経・脊髄の損傷	筋・腱の損傷	窒息	感覚機能の低下	熱傷	凍傷	皮膚障害	感電障害	中毒	呼吸器障害	消化器障害	その他の傷病及び諸症状			不明
全体	317	63	4	636	475	22	12	199	82	19	134	569	10	4,690	4	151	388	3,283	2,745	229	14,032	100.0
健康食品	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	8	0	0	852	0	0	25	2,621	330	70	3,911	27.9
化粧品	0	0	0	8	9	0	0	0	0	0	10	8	0	2,680	0	1	10	9	141	3	2,879	20.5
医療サービス	17	3	0	7	6	4	6	16	2	0	37	85	5	194	0	0	6	29	379	33	829	5.9
エステティックサービス	1	0	0	54	4	0	0	15	0	0	5	78	1	177	0	0	1	10	47	1	394	2.8
外食	7	3	0	18	27	0	1	0	1	0	0	48	0	8	0	72	7	105	57	8	362	2.6
歯科治療	0	0	0	6	12	0	0	12	0	0	5	7	0	9	0	0	2	4	295	4	356	2.5
美容院	3	0	0	8	18	0	0	4	1	0	4	34	0	130	0	0	0	1	57	1	261	1.9
賃貸アパート・マンション	5	3	0	15	4	0	0	3	0	0	3	4	0	29	0	2	78	5	90	13	254	1.8
調理食品	0	0	0	4	25	0	1	1	0	1	1	9	0	18	0	25	2	96	58	3	244	1.7
他の医療サービス	20	4	0	26	1	0	0	27	16	0	1	7	0	4	0	0	0	2	82	3	193	1.4
骨つぎ整復	11	6	0	18	0	0	0	24	8	0	0	12	0	12	0	0	0	4	83	3	181	1.3
飲料	0	0	0	6	9	1	0	0	0	2	3	3	0	16	0	4	5	93	27	0	169	1.2
家具類	6	0	1	30	22	0	0	9	5	0	0	0	0	13	0	0	13	3	36	2	140	1.0
菓子類	0	0	0	1	14	0	0	1	0	3	0	1	0	16	0	0	9	41	49	3	138	1.0
医薬品類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	50	0	0	4	32	38	2	130	0.9
商品一般	35	8	0	48	9	1	0	7	4	0	1	1	0	0	1	0	0	1	8	6	130	0.9
他の理美容サービス	0	0	0	10	7	0	0	0	0	0	6	7	0	35	0	0	1	2	59	0	127	0.9
洗濯用洗剤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	9	0	0	25	5	73	7	124	0.9
スポーツ・健康教室	20	1	0	7	2	1	0	10	16	0	1	2	0	9	0	0	0	0	39	5	113	0.8
自転車	15	2	0	62	9	2	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	4	103	0.7

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表27 危害情報における年代別上位商品・役務等と件数

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満		外食 26	家具類 13	遊園地・ レジャーランド 12	玩具・遊具 その他 10	賃貸アパート・ マンション 10
10歳代		化粧品 161	健康食品 92	自転車 28	医療サービス 11	エステティック サービス 9
20歳代		化粧品 258	健康食品 227	エステティック サービス 140	医療サービス 128	外食 48
30歳代		健康食品 402	化粧品 225	医療サービス 111	エステティック サービス 85	賃貸アパート・ マンション 57
40歳代		健康食品 942	化粧品 502	医療サービス 144	外食 73	エステティック サービス 71
50歳代		健康食品 1,099	化粧品 675	医療サービス 108	歯科治療 62	エステティック サービス 52
60歳代		健康食品 603	化粧品 560	医療サービス 86	歯科治療 62	調理食品 41
70歳以上		健康食品 378	化粧品 340	医療サービス 149	歯科治療 73	医薬品類 53
無回答 (未入力)		健康食品 165	化粧品 156	医療サービス 83	外食 53	歯科治療 39

年代	順位	6位	7位	8位	9位	10位	累計 (%)
10歳未満		医療サービス 9	調理食品 9	菓子類 8	飲料 8	商品一般 6	48.9
10歳代		家具類 9	美容院 9	菓子類 8	外食 7	飲料 7	81.0
20歳代		美容院 43	賃貸アパート・ マンション 42	他の理美容 サービス 28	歯科治療 25	調理食品 20	84.9
30歳代		外食 52	歯科治療 39	他の理美容 サービス 36	他の医療 サービス 31	美容院 29	71.2
40歳代		美容院 51	歯科治療 50	賃貸アパート・ マンション 48	調理食品 42	他の医療 サービス 40	74.4
50歳代		美容院 51	外食 47	他の医療 サービス 41	調理食品 40	洗濯用洗剤、 骨つぎ整復 36	76.7
60歳代		医薬品類 30	外食 30	骨つぎ整復 30	他の医療 サービス 27	美容院 27	72.6
70歳以上		骨つぎ整復 39	調理食品 36	家庭用電気 治療器具 35	ふとん類 32	他の保健衛生 用品 30	59.0
無回答 (未入力)		賃貸アパート・ マンション 34	美容院 28	調理食品 27	飲料 22	他の医療 サービス 19	54.3
						累計	14,032 71.1

(注) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表28 危険情報における上位商品・役務等の危険内容ごとの件数

危険内容 商品・役務等	危険内容																				2019年度計	割合(%)		
	火災	発火・引火	発煙・火花	過熱・こげる	ガス爆発	ガス漏れ	点火・燃焼・消火不良	漏電・電波等の障害	燃料・液漏れ等	化学物質による危険	破裂	破損・折損	部品脱落	機能故障	転落・転倒・不安定	バリ・鋭利	操作・使用性の欠落	腐敗・変質	異物の混入	異物の侵入			その他	不明
全体	50	222	282	333	1	14	18	15	50	12	69	243	79	326	43	2	72	27	301	9	204	2	2,374	100.0
四輪自動車	8	8	24	13	0	0	0	0	6	0	3	26	17	210	0	0	13	0	0	0	18	0	346	14.6
調理食品	0	5	4	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	72	0	5	0	93	3.9
自転車	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	19	7	11	1	0	3	0	0	0	13	0	59	2.5
電子レンジ類	0	18	17	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	52	2.2
電話関連機器・用品	1	17	11	19	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	52	2.2
パソコン	2	9	14	21	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	50	2.1
家具類	0	0	1	1	0	0	0	0	2	3	0	22	9	0	6	0	4	0	1	0	0	0	49	2.1
菓子類	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	40	0	2	0	49	2.1
電気掃除機類	3	8	18	7	0	0	0	1	1	0	2	3	1	0	0	0	1	0	0	0	4	0	49	2.1
携帯電話	0	7	7	26	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	1.9
自動二輪車	3	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	5	3	28	0	0	1	0	0	0	0	0	45	1.9
外食	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4	30	0	4	0	42	1.8
賃貸アパート・マンション	1	1	5	3	0	2	0	0	3	1	0	9	1	3	5	0	1	0	0	0	6	0	41	1.7
修理サービス	0	1	5	1	0	0	0	0	0	0	1	2	5	23	0	0	0	0	1	0	1	0	40	1.7
ヘアケア用具	0	12	20	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	39	1.6
テレビ	0	6	21	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	35	1.5
室内照明器具	0	3	8	12	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	29	1.2
飲料	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	2	13	0	6	0	29	1.2
パソコン周辺機器・用品	1	5	7	9	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	28	1.2
パン類	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	25	0	0	0	28	1.2

(注1) 表中の割合は、小数点第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2020年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。